

令和2年度 第2回日本脊椎脊髄病学会 安全医療推進委員会 議事録

2020.07.29 (水) 19:00-20:15

場所：オンライン会議（会議主催地：名古屋大学医学部附属病院 会議室）

出席委員： 高相（担当理事） 今釜（委員長） 相澤 大谷 奥田 金村
小西 須田 中西（書記） 西田 宮腰 村上 大和 湯川（敬称略）

欠席委員： 村上（敬称略）

議事

1. 報告事項

（ア）日本脊椎脊髄病学会理事会報告：高相（担当理事）

- ・広報と連携し、医療安全に係る論文の掲載は学会 HP ではなく、会員メールで来る topics に掲載する方向で進める。ただし、著作権の問題があり、JSR や SSRR の論文に限ることとし、海外の論文は含めない。（担当は学会事務局）
- ・次回の本委員会で富山大学川口先生より研究テーマについて報告いただく。
- ・今後、JSSR 主導で行う多施設研究などにおいては、それぞれの大学の倫理委員会の承認だけでなく、JSSR の倫理委員会の承認も得ることとする。

（イ）JSSR 大野先生の放射線アンケート：高相（担当理事） 今釜（委員長）

- ・今月末締切のアンケートであるが、現在 400 施設程度（全施設約 2000 のうち）しか回収できていない。リマインドメールを送付し回収率向上を図る。

（ウ）JSSR 統合型 DB 進捗状況：

- ・金村徳相 DB 委員会委員長より DB 進捗状況について説明いただいた。現在、JOANR にて 2 階部分の連結にかかるフローと法的な解釈の整備中で、その手続きが終了してから JSSR への統合を進めていく。そして最初にプロトタイプとして、本委員会での合併症調査を開始していく。調査対象は評議員の施設すべてであり、期間も 1~2 か月ぐらいで区切って調査する予定。まずはベンダーが決まり次第、調査項目の選定・構築を行っていく予定。前回討議した 3 階部分である各種委員会での project も引き続き推奨していくが、統合するためのシステムフローを先に構築しておく必要がある。

2. 検討・確認事項

（ア）【新規】抗凝固剤内服と硬膜外血腫リスクの検討：

脊椎手術における抗凝固剤の休薬について某大学より提案があったため審議し

た。

・(提案)2020年3月に冠動脈疾患患者における抗血栓療法ガイドラインがアップデートされた。ある事例が挙げられ、脊椎手術を行う際に、某病院の循環器内科より、一般的な脊椎手術は中等度の出血リスクと定義されており、抗血小板薬(アスピリン)の休薬は必要ないと指摘された。脊椎外科医の立場からすると硬膜外血腫のリスクも考慮すべきであるが、ガイドラインでは休薬となっていない。脊椎外科医としての方針を本委員会で検討し、日整会やJSSRから、循環器内科学会に提言した方が良いのではないかと提案があった。

・抗凝固剤と硬膜外血腫の関連を示す論文は数多くあり、脊椎外科医から循環器の先生に危険性を説明する必要がある。

・ガイドラインをよく見ると、軽度の脊椎手術は低リスク、主要な脊椎手術は中等度リスクとなっているが、脊髄手術や(本文中には)閉鎖された場所(脊柱管)における手術は高リスクとなっている。脊髄手術には神経を扱うすべての脊椎手術を含めるような解釈や、脊柱管内の操作を必要とする手術は閉鎖された場所における手術という解釈も必要であり、個別の症例において循環器内科と相談して対応するべきであるとの意見でまとまった。

・また脊椎手術の合併症としては、頸椎前方固定後の血腫などによる窒息も重篤な合併症であり注意が必要である。こちらも抗凝固剤中止を検討すべき脊椎脊髄手術として、高リスクとすべきではないかという意見も複数あった。

これらの本委員会の意見を理事会に上げていただき、日整会とも歩調を合わせて、循環器内科学会に提言などをしていただくように依頼する。

同時に、日本脊椎脊髄病学会員にも冠動脈疾患患者における抗血栓療法ガイドラインが更新されたことを周知すべく、topicsで通知していただく。

3. 次回委員会開催日

毎月一回、DB委員会の進捗と合わせ、随時予定(理事会開催後の日程)

今回は9/14以降に、富山大学川口先生よりレベルエラー研究のプレゼンテーションと研究内容の検討などを行う予定である。